

## 第 2 日 ( 午後 の 部 )

まず、鏑木氏の講演は、固体表面に吸着した原子・分子の秩序構造に関する Classical Lattice Gas Model の適用について述べたものであった。このような解析から得られる相互作用パラメタ  $J_k$  についての情報が、ミクロスコピックな理論に刺激を与えることが望まれる。

ついで、安藤、松本、大川氏によって、植村研で行われている表面反転層の電子状態の解析が紹介された。安藤氏の強磁界下における多体効果、松本氏の凹凸による散乱、大川氏の Narrow-Gap Semiconductors の表面層電子状態の議論は、それぞれ理論的に興味ある問題であるばかりでなく、実験と強く結びついた問題という点でも重要である。今後更に詳細な検討が進むことが期待される。 ( 御子柴宣夫 )